**令和元年度　霧島市母子保健検討委員会　会議要旨**

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和元年8月5日（月）　19:30～20：45 |
| 開催場所 | 国分シビックセンター公民館　3階　大研修室 |
| 出席委員 | 植木委員長、前田委員、磯脇委員、髙山委員、新田委員、塗園委員、小湊委員、五反田委員 |
| 事務局 | 【健康増進課】林課長、中村保健予防グループ長、吉村健康づくり推進グループ長、冨吉発達支援グループ長、東郷主査、大田主査【すこやか保健センター】島木所長、上小園地域保健グループサブリーダー、渡邉主査、大迫技師、坂口技師【子育て支援課】大窪子ども家庭支援室長【学校教育課】濵尻安全・保健体育グループ長 |
| 公開・一部非公開又は非公開の別 | 公開 | 傍聴人数 | 0人 |
| 議事（1）健康きりしま21（第3次）計画（母子保健分野）について（2）その他 |
| 協議結果等の概要　　　　　委：委員　　事：事務局（1）健康きりしま21（第3次）計画（母子保健分野）について　　⇒　事務局が資料に沿って説明。委員からの主な質問は次のとおり。委：平成２９年の市の乳児死亡率（出生千対）が７と非常に高く、国・県と比べても高いのだがなぜ高いのか分析はしているか。事：死因は先天的な病気によるものが５件、乳幼児突然死症候群１件、死因不明が２件となっているが分析には至っていない。委：なぜ高いのか。目標値1.9に向けてやっていくためには原因の分析が必要。世界的には日本の乳児死亡率は３位か４位だと思う。北欧の国が上位で、アメリカでも５％台なので、霧島市の７という数値は中盤くらいの国と同程度となるので高いと思う。それを３分の１にする手立てがあるのか気になった。高い理由を分析した結果を来年にでも教えてほしい。事：医療の発達があり、小さく生まれても育つようになってきたが、亡くなるケースもある。先天的な死因については妊娠中の過ごし方が要因になるのか分析が難しい。原因がわかる方法があるなら教えていただけるとありがたい。委：新生児が助かる基準は国によって違う。日本は妊娠週数２２週の早産児から助けられているが、北欧では２５～２６週からであり、外国では淘汰されているところがある。元々新生児医療は日本が進んでいて、２２週からの早産児を助ければ助けるほど、逆に乳児死亡率が上がることにつながることもある。外国と日本の状況を一概に言うことは難しい。委：こんにちは赤ちゃん事業の件数が減っているが、高リスク対象者が多かったせいか。事：その通りである。 委：養護教諭との情報交換を行った内容、小中学生が悩んでいることは何か。事：児童生徒が命の大切さを知り、自分も周りの人も大切にできるようになるという同じ方向に向いていることをお互いに確認した。自分の体を自分で守るという意識を持たせることが必要だという同じ認識を持ち、これから養護教諭とも連携していこうという状況である。委：地区の養護教諭間では、自分を大切にするという自己肯定感を育てていければという話が出ている。助産師会が実施している「いのちの授業」はとてもいいものだが、費用が15,000円かかるため学校単位での実施が難しい。鹿児島市では市の事業として各学校で２年に１回は受けられるように予算が組まれている。霧島市でもどうか。事：全ての学校に保健センターが出向いて授業を行うことは難しい現状である。教育媒体を貸す、困ったことがあれば、情報共有して一緒に考えることはできる。 委：予算がなければ、子育て支援をしているところが中学校に入って、赤ちゃんについて学ぶ場を作っているところもあるようなので、考えてもらえたらいい。 委：「赤ちゃんが生まれたら」のパンフレットはいつどこで配布しているのか。事：産婦人科で退院するときに配布している。 委：大変な時期に資料をたくさん渡されても見られないのではないか。こんにちは赤ちゃん事業の訪問時に個別に渡すのはどうか。また、日が晴れないうちに出歩く人がいる。適切な外出の仕方についても指導することが大事ではないか。 事：相談先がわからないという母親がいたため、出産した産婦人科で資料を配布してもらうことになった。資料ごとの配布時期を検討していきたい。委：予算が伴うが、出産した産婦人科とこんにちは赤ちゃん事業の訪問時の２回、配るようにしてもいいのではないか。委：薬局に来る親子の中に、育児疲れがないか心配になる親がいる。薬剤師会員の中で、すこやか保健センターの存在をどれくらい知っているだろうか。このようなパンフレットがあるとありがたい。事：今後、関係機関向けの、育児についての相談先がわかるような資料作成について検討していきたい。委：心理相談を利用する人はどのような悩みを持っているのか。事：子育ての悩みだけでなく、日頃のこと、母親のストレス、子どもへの接し方などいろいろである。委：計画書には「出産後気分が落ち込んだり、涙もろくなったり、何もやる気になれないといったことがある市民の割合は33.2％」とあるが、どの時期に行った調査か。事：保健センターの教室に参加した、産後２～３か月の時期の母親を対象に行った。（２）その他　　特になし |
| 会議資料 | 【配布資料】○会次第○霧島市健康・生きがいづくり推進における各種委員会の設置に関する要綱○健康・生きがい作り推進の組織体制　○霧島市母子保健事業実績○霧島市子育て世代包括支援センターの役割について○霧島市子育て世代包括支援センターの体制及び運営状況○霧島市退院後支援パンフレット（ご出産おめでとうございます） |